



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2012～2013年度 RI会長 田中 作次
RIテーマ Peace Through Service 奉仕を通じて平和を

クラブテーマ「チ・カ・ラを出そう」会長 太田政人

副会長 山本良一 幹事 石井司人

第1112回 例会 2011.10.26(金)晴

司会:石井和郎君 指揮:久保栄子君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 太田政人君



皆さまこんにちは、昨日は大榎町の佐々木健さんが静岡県庁に公務出張で来られることになり、東日本大震災復興支援委員会が贈呈しました青少年の図書購入に対してのお礼にと三島に立ち寄りました。

午後1時半ごろ新幹線に到着しました、大榎町は三島市と同じ様に湧水が豊富なところですが、佐々木さんは清流で育つ三島梅花藻に非常に興味を示し是非見てみたいとおっしゃっておりましたので、石井幹事の車で三島近郊を案内しました。箱根神社、十国峠、三島大社、三島梅花藻の里、柿田川を石井幹事のガイドで3時間ほど見て回りました、佐々木さんは岩手県とまた異なった静岡県東部の風土に感激しきりでした。夜は登喜和でせせらぎ三島RCメンバー11名との会食となりましたが、手術を終えたばかりの兼子さんがお元気な姿でお見えになりました、復興支援委員会の長としての責任感の強さに敬服いたします。席上、佐々木さんより支援金に対してのお礼の言葉と共に図書を購入する書店からの領収書を頂きました、この領収書と個別プロジェクト報告書を早速地区に送ります、11月には地区補助金26万円が振り込まれます。佐々木さんは大榎町の復興に対しての想いを熱く語っていました、復興にはまだまだ遠く長い道程ですが頑張ってください、せせらぎ三島RCも何かお手伝いできましたら協力していきたいと思っております。

佐々木さんはぜひ読んでくださいと2冊の本を持ってきました、大震災の直前に発行された「大榎の自然、水、人」と震災後の今年9月に発行された「天恵と天災の文化誌」です、時間がなく拾い読み程度しかしていませんが、震災前後がよく対比されています、後ほどこの本の購入申込書を事務局に送って頂くことにしました、地域振興のためにも購入してください、お願いします。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

上村昌延君(伊東RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	27/36	75.00%	31/36	86.11%
今回	27/35	77.14%	会員総数	36名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

内田君、大房君、杉山(隆)君、西原君、服部君、矢岸君、山本(良)君、米山君

おめでとう

入会記念日 10月26日 宮澤正昭君



今日の料理

初めての卓話で大変緊張しています。今日は、私の職業紹介を兼ねて、日頃どんな事を考えながら仕事をしているか？について話をさせていただきます。

私は、昭和44年に北海道札幌にて生まれました。その後1歳半で、父親の実家がある沼津に引っ越して来ました。高校まで沼津で過ごし、1年の浪人をへて、北海道薬科大学に入学し、4年後薬剤師の国家試験に何とか合格しました。その後、初めての社会人として、山之内製薬(現アステラス製薬)に就職し病院回りの営業(MR)として働き、沢山の気づきをいただきました。

その1つは、いくら知識で武装しても目の前にいる相手が私の話を聞いてくれる環境がなければ何の意味もない！というものです。その事は、今の仕事においてもまったく同じであり、弊社スタッフにも土俵作りの大切さをいつも伝える努力をしています。その後、平成8年に三島の徳倉にて、有限会社ポプラを設立しアキ薬局(現ポプラ薬局三島徳倉店)を開業しました。名前は妻章子のアキから取りました。そして平成19年に社名をピーエフシー株式会社に変更し現在11の店舗にて運営しています。

しかしながら、医療を取り巻く環境も徐々に変化し、これまでと同じやり方をしていけば間違いなく右肩下がりの時代となりました。また薬剤師もこれまでは常に不足の時代でしたが、薬学部も6年制になり薬科大学も増え、近い将来間違いなく余る環境になると考えています。そこで4年ほど前よりSMO事業部を立ち上げ治験に携わる仕事を始めました。これは治験がスムーズに進むように治験事務局として、ドクターと被験者の間にはいるCRC(治験コーディネータ)を派遣する仕事です。現在は3名の看護師を採用し進めています。将来は余りゆく薬剤師の新たな受け皿として、また薬のプロとして、薬剤師に特化したSMOを目指しています。そして、薬局事業と、SMO事業では必ずリンクしてくる部分があります。その情報を管理、コントロールする為の、トータルサポート事業部を設立します。ここでは情報管理だけではなく、薬剤師の派遣・紹介業を実施します。この3つの事業が上手く回転していけば、弊社も今の不安定な会社から安定した会社に変貌で出来ると考えています。小さくてもこの安定した企業体としてのビジネスモデルを構築する事が、私の夢でもあり、目標として、これからも頑張っていきたいと思っています。

これからは、私が大変影響を受けた2冊の本の紹介をさせていただきます。

1冊目は、下村澄さんの「成功の法則」。2冊目は尊敬する稲盛和夫さんの「生き方」です。まずは成功の法則より1つのエピソードを紹介させていただきます。

明治から昭和にかけて政治家として活躍された後藤新平さんと、正力松太郎さんの話です。当時正力さんは、警視庁警務部長でした。その時昭和天皇が銃撃されるという大変な事件(虎ノ門事件)が起きました。幸い負傷者はなかったとの事ですが、責任者だった正力さんは、警視庁を辞職したそうです。その様子を見ていた後藤さんが正力さんに、当時まだ町のかわら版だった読売新聞をやらないか？と持ちかけたそうです。当然無職の正力さんはやりたい。しかし先立つお金がありません。そこで後藤さんにその事を相談しました。

すると数日後後藤さんが、当時のお金で数十万円という大金をもってきて、これでやるように言ったそうです。そして後藤さんの他界後初めてそのお金は自宅を担保に借金して作ったお金だということが判明したそうです。正力さんもさすがに感激し、後藤さんの郷里である岩手県の水沢市に公民館を寄贈し、そこには現在も記念碑が残されています。そこには、自治三訣とあり、一、人のお世話をするように。一、人の世話にならぬように。一、そして報いは求めないように。私は、大変心を打たれました。そんな思いで仕事も頑張っていきたいと思っています。

次に、生き方より紹介させていただきます。

稲盛さんは、いろいろな著書にて「人生の方程式」ということを言っております。ここにも記されており、それは 人生の結果 = 熱意(やる気) × 能力(持っている力) × 考え方。その中で最も重要なのが考え方だそうです。理由は、熱意や能力は100~1までだが、考え方は100~-100までであると言うのです。つまり高い熱意や能力を持っていても、ほんの少しでもマイナスの考え方をしてしまうとそれだけ大きなマイナスの結果が残ってしまうという事です。私がこの記事を目にした頃、世間ではちょうどライブドアのホリエモン事件や村上ファンドの問題が話題になっていた頃で、あれだけ高い熱意や能力を持っていても、ほんの少しのマイナスの考え方で、あれだけ大きなマイナスの結果が残ってしまうのを目の当たりにしました。私は、熱意や能力はそこそこですが、せめて考え方をプラスにして少しでもプラスの結果を積み重ねて行けるように仕事もやって行きたいと考えています。

スマイルボックス

小島 真君: 本日初めての卓話です。お聞きにくい点多いと思いますが、あたたかい目で見守って頂けると幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

太田政人君: 昨日大槌町の佐々木さんがお土産として特産のワカメを2袋持ってきました。冷蔵保存と書いてありましたので私が頂きました。後程メンバー数お送りして下さるそうです。

石井司人君: 昨日、大槌町の佐々木様との交流でメンバーの皆様にはお世話になりました。

久保栄子君: 昨晚、大槌町の佐々木さんとの懇談会に参加させていただき、終始心がゆさぶられました。今後も私なりに復興支援にかかわっていきたいと思っています。

